

第2章

実践編

—指定校における取組—

第2章では、平成27年度中1ギャップ問題未然防止事業に取り組んだ全道の3中学校区における中1ギャップ解消に向けた具体的な取組を紹介します。

I 指定中学校区における「中1ギャップ解消プラン」

豊富町立豊富中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 豊富町立豊富中学校（生徒数 104 名）
連携小学校名 豊富町立豊富小学校（児童数 177 名）

本プランの特徴

- 児童生徒の集団への所属意識や自己有用感を高める学年・学級経営を行うため、子ども理解支援ツール「ほっと」や学級集団アセスメント「Q-U」を活用しています。
- 義務教育9年間の視点に立ち、児童生徒の成長や課題を共有するため、小・中学校が連携した合同研修を行っています。
- 中学校進学への期待や入学後の学習意欲を高めるため、「出前授業」や「部活動体験」を行っています。

1 中学校区の特徴

豊富町は人口 4,000 人余り、秀峰利尻富士を背景に、サロベツ原野の広大な平原が広がる酪農を基幹産業とする町である。豊富中学校は、市街地の北部に位置し、道内では数少ない系列別教科教室型校舎であり、バリアフリー構造となる校舎は、地域開放の拠点としても期待されている。小学校校舎の新築、体育施設の活用など、町民の教育に対する関心や期待が大きく、教育環境に恵まれている。

2 中学校区の課題

児童生徒は、素直で明るく、行事や部活動に積極的に取り組む一方、学年1学級の編制が義務教育の9年間連続するため、人間関係が固定化し、トラブルが発生すると改善されにくい傾向がある。学習面では、基礎・基本の定着が十分に図られていない児童生徒や通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒が多く、小・中学校の連携による学習習慣の確立が急務である。また、スマートフォン等によるSNSの利用時間が非常に長く、家庭、地域と連携した生活習慣改善の取組を進める必要がある。

3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 子ども理解支援ツール「ほっと」や学級集団アセスメント「Q-U」を活用した児童生徒理解の充実を図る。
- (2) 人間関係を形成する力の育成を図る教育課程の小・中学校の円滑な接続を工夫改善する。
- (3) 学習指導や生活指導の小中連携を推進する。

4 中1ギャップ検討委員会の組織

所 属	役 職	所 属	役 職
豊富町立豊富中学校	校 長	豊富町立豊富小学校	校 長
豊富町立豊富中学校	教 頭	豊富町立豊富小学校	教 頭
豊富町立豊富中学校	教諭（教務担当）	豊富町立豊富小学校	教諭（教務担当）
豊富町立豊富中学校	教諭（生徒指導担当）	豊富町立豊富小学校	教諭（生徒指導担当）
豊富町教育委員会	次 長	豊富町教育委員会	学校教育係長

5 中1ギャップ解消プランの実際

○～学校の取組 ■～児童生徒がかかわる取組

○～学校の取組 ■～児童生徒がかかわる取組

時 期	豊富町立豊富中学校	豊富町立豊富小学校
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校いじめ防止基本方針等の共通理解 ・ 目的や内容について ・ 組織の設置、対応について 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校いじめ防止基本方針等の共通理解 ・ 目的や内容について ・ 組織の設置、対応について
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">授業交流</p> <p>○ 参観日 ○ 参観日を活用した授業参観(中学校へ)</p> </div>		
5月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">第1回 中1ギャップ検討委員会(小中連携協議会)</p> <p>○ 事業の目的及び重点目標の確認 ○ 小中連携の方向性の共通理解</p> <p>○ 事業内容の確認 ○ 小中連携に係る意見交換</p> </div>	
6月	○ 「いじめアンケート」の実施	○ 「いじめアンケート」の実施
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">第1回「子どもを考える学習会」(小中合同研修)の開催</p> <p>○ 中学校の全学級授業公開 ○ 児童生徒の実態交流</p> <p>○ テーマ別グループ協議</p> <p style="text-align: center;">※保育所、高等学校にも、保小中高連携の視点で参加要請</p> </div>		
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」実施 ・ 学級集団分析と生徒理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級集団アセスメント「Q-U」実施 ・ 学級集団分析と児童理解
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">授業交流</p> <p>○ 参観日を活用した授業参観(小学校へ) ○ 参観日</p> <p>○ 参観日 ○ 参観日を活用した授業参観(中学校へ)</p> </div>		
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析による実態交流 ○ 学年集団づくりの具体的な取組 ・ 遠足(1年) ・ 宿泊学習(2年) ・ 修学旅行(3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級集団アセスメント「Q-U」の分析による実態交流 ・ 「Q-U」の結果分析による、児童個々の実態把握及び学級全体の傾向の確認
9月	○ 教育相談の実施	○ 教育相談の実施
10月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">第2回 中1ギャップ検討委員会(小中連携協議会各部会)</p> <p>○ 第2回「子どもを考える学習会」(小中合同研修)の内容の検討</p> <p>○ 学習規律の交流、小中連携の課題(教務主任)</p> <p>○ 「ほっと」、「Q-U」の分析結果の交流(生徒指導担当)</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">■生徒会による小学校への訪問(生徒会長が第6学年を訪問)</p> <p style="text-align: center;">・ 中学校の「文化祭」への招待活動</p> </div>		

11月	<p style="text-align: center;">第2回「子どもを考える学習会」(小中合同研修)の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校の全学級授業公開 ○ テーマ別グループ協議 ○ 児童生徒の実態交流 <p style="text-align: center;">※保育所、高等学校にも、保小中高連携の視点で参加要請</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校だよりによる家庭への啓発 ・スマートフォン等メディアの利用時間の実態調査の結果を公開 ・スマートフォン等メディアの正しい使い方等の情報提供
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「いじめアンケート」の実施 ・6月実施結果と比較分析 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 懇談会、学校だよりによる家庭への啓発 ・スマートフォン等メディアの利用時間の実態調査の結果を公開 ・家庭におけるルールづくりの検討(学級懇談会)
1月	<p style="text-align: center;">第3回中1ギャップ検討委員会(小中連携協議会各部会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出前授業、新入生体験入学、部活動体験の内容(教務主任) ○ いじめ、不登校の実態交流(生徒指導担当) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」実施 ・学級集団分析と変化(7月比較)
2月	<p style="text-align: center;">第1回 小・中学校の引継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級の実態～「Q-U」の活用 ○ 保護者の様子 <p style="text-align: center;">第1回 小学校への出前授業</p> <p style="text-align: center;">■中学校教員による数学、社会の授業 ■学習内容、指導方法の理解の深化</p> <p style="text-align: center;">小学校第6学年の部活動体験</p> <p style="text-align: center;">■小学校第6学年の希望者対象 ■土・日の部活動に参加</p> <p style="text-align: center;">■野球、男女バレーボール、バドミントン、陸上、吹奏楽</p> <p style="text-align: center;">新入生体験入学</p> <p style="text-align: center;">■授業体験～理科 ■中学校第1学年が学校紹介、合同レクを運営</p>	
3月	<p style="text-align: center;">第4回中1ギャップ検討委員会(小中連携協議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の反省 ○ 次年度への改善点の検討 <p style="text-align: center;">第2回 小学校への出前授業</p> <p style="text-align: center;">■中学校教員による国語、英語の授業 ■学習内容、指導方法の理解</p> <p style="text-align: center;">第2回 小・中学校の引継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童一人一人の引継ぎ ○ 「Q-U」を活用した引継ぎ 	

6 事業の成果

- 子ども理解支援ツール「ほっと」や学級集団アセスメント「Q-U」を活用したことにより、児童生徒のコミュニケーション能力の課題や学級集団・人間関係の課題が客観的に把握でき、学級経営の改善に生かすことができた。
- 児童生徒の集団の一員であるという意識や自覚を高める取組を意図的・計画的に設定したことにより、第1学年の「いじめアンケート」において「いじめられたことがある」と回答した生徒の割合が、18.4%から7.9%に、「見たり聞いたりしたことがある」と回答した生徒の割合が、44.7%から31.6%に減少した。
- 「授業交流」や「出前授業」を複数回実施したことにより、小・中学校の教員一人一人が児童生徒の実態把握や学習内容の系統性について理解を深めることができた。また、児童の中学校進学への不安を軽減することができた。
- 小・中学校教員による合同研修を行い、スマートフォンの使い方など、児童生徒の実態と課題を共有したことにより、学校だよりを通じて、家庭・地域に共通に情報を発信することができた。

7 今後の課題

- 連携するねらいを明確し、協働した取組となるよう、具体的な取組内容、時期について話し合い、共通理解を図るとともに、コーディネーターを配置し、円滑に取組を進める必要がある。
- 児童生徒一人一人の集団の一員であるという意識や自覚が高まるよう、児童会及び生徒会が連携し、いじめやネットトラブルの未然防止に向けた主体的な活動を企画・実施する必要がある。
- 家庭、地域や関係機関との取組が一層充実するよう、学校だより等を通じて、情報発信を継続して行う必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- アンケートや子ども理解支援ツール「ほっと」等を活用した取組の検証
複数回のアンケートや子ども理解支援ツール「ほっと」、学級集団アセスメント「Q-U」の結果を活用することは、児童生徒の実態を踏まえ、学級の集団意識を高める取組を意図的・計画的に進めることができるとともに、児童生徒の変容を客観的に把握することができる。
- 「授業交流」や「出前授業」による児童生徒の実態や学習の系統性の把握と進学への期待
「授業交流」や「出前授業」を複数回実施することは、児童の中学校進学への関心・意欲を高めるとともに、教職員が児童生徒の実態把握及び学習内容の系統性や学習規律を共通理解する上で大変有効である。
- 小・中学校の課題の共有と家庭、地域への情報発信
小・中学校がそれぞれの課題を共有し、家庭、地域に対して共通した情報を発信することは、学校、家庭、地域が一体となった取組を進めることができるとともに、学校への信頼を高めることができる。

標茶町立標茶中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 標茶町立標茶中学校（生徒数 183 名）
連携小学校名 標茶町立標茶小学校（児童数 299 名）

本プランの特徴

- 共感的な人間関係等を育むため、生徒指導の3つの機能を生かした授業を展開しています。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」を効果的に活用した教育相談等の取組を行っています。
- 小・中学校間の円滑な接続を目指し、小中連携委員による部会協議や授業参観等を行っています。

1 中学校区の特徴

標茶町は人口約 8,000 人の酪農が基幹産業の町である。標茶中学校は町の中心に位置しており、近隣には標茶幼稚園、北海道標茶高等学校がある。本校区には、3つの小学校があり、新入生の約9割が標茶町立標茶小学校の児童である。教育に対する保護者や地域住民の関心や期待は高く、学校の教育活動にも積極的に参加・協力をしている。また、地域活動も町内会を中心に運営され、地域と連携したPTA活動が行われている。

2 中学校区の課題

児童生徒は、素直で正直であり、挨拶もしっかりできる一方で、小学校入学時から本校を卒業するまでの9年間、人間関係に大きな変化がないこともあり、積極的に他者とコミュニケーションを図ろうとする意識が低い。そのため、仲間同士でトラブルになった場合、解決までに時間がかかったり、親しい友人以外と積極的に関わろうとしなかったりすることがある。また、中学校での学習や生活に不安を抱えている児童も多数いることから、小中連携の取組を推進していく必要がある。

3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 自ら考え判断し、他者と積極的に関わりながら主体的に活動する授業づくり
- (2) 子ども理解支援ツール「ほっと」を効果的に活用した教育相談等の充実
- (3) 小・中学校間の円滑な接続を目指す小中連携の推進

4 中1ギャップ検討委員会（小中連携委員会）の組織

所属	役職	所属	役職
標茶町立標茶中学校	教 頭	標茶町立標茶小学校	教諭（教務）
標茶町立標茶小学校	教 頭	標茶町立標茶小学校	教諭（生徒指導）
標茶町立標茶中学校	教諭（教務）	標茶町立標茶小学校	教諭（研修）
標茶町立標茶中学校	教諭（生徒指導）	標茶町教育委員会	指 導 室 長
標茶町立標茶中学校	教諭（研修）		

5 中1ギャップ解消プランの実際

□～小中連携の取組 ○～学校の取組 ■～児童会・生徒会の取組

時 期	標茶町立標茶中学校	標茶町立標茶小学校
3月	【新入学生徒に関する引継ぎ】 <input type="radio"/> 学習、生活、交友関係等の状況及び配慮事項についての確認 <input type="radio"/> 個別の指導計画を活用した特別な支援を必要とする生徒についての確認	
4月	<input type="radio"/> 学校いじめ防止基本方針等の共通理解 ・学校いじめ防止基本方針の目的や内容について ・組織の設置について ・重大事態への対応について（シミュレーション） <input type="radio"/> 春の教育相談週間 <input checked="" type="checkbox"/> あいさつ運動（通年）	<input type="radio"/> 学校いじめ防止基本方針等の共通理解 ・学校いじめ防止基本方針の目的や内容について ・組織の設置について ・重大事態への対応について（シミュレーション）
5月	【中1ギャップ未然防止事業の共通理解】 <input type="radio"/> 事業の目的及び重点目標等の確認 <input type="radio"/> 小中連携の方向性	
	<input type="radio"/> 生徒指導研修 ・事例研究 ・生徒指導の3つの機能を生かした授業 <input type="radio"/> いじめアンケートの実施	<input type="radio"/> いじめアンケートの実施 <input type="radio"/> 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 <input type="radio"/> いじめアンケート及び「ほっと」の結果を活用した個別の教育相談の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 「ありがとうボックス」の取組(よりよい人間関係づくり)
6月	<input type="radio"/> 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 生徒会企画「ドッジビー大会」(異学年交流)	
7月	<input type="radio"/> いじめアンケート及び「ほっと」の結果を活用した個別の教育相談の実施 <input checked="" type="checkbox"/> 体育祭(A団・B団による練習～異学年交流) <input type="radio"/> 「担任への手紙」①	
	【第1回小中連携委員会の開催】 <input type="radio"/> 事業内容等の確認 <input type="radio"/> 児童生徒の実態交流 <input type="radio"/> 小中連携の内容に係る意見交換	
8月	<input type="radio"/> 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析による学級及び個人の実態交流 <input checked="" type="checkbox"/> いじめ根絶標語づくり <input type="radio"/> 秋の教育相談週間(～9月)	<input type="radio"/> 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析による学級及び個人の実態交流 <input type="radio"/> 言葉遣いの指導 <input checked="" type="checkbox"/> いじめ根絶標語づくり(第4～6学年)
9月	<input type="radio"/> 「ほっと」の分析結果を活用した道徳の時間の授業の実施【2-(3) 友情・信頼】	<input checked="" type="checkbox"/> 縦割り地区遊び(異学年交流)

10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 縦割り地区遊び(異学年交流) ■ どさんこ☆子ども地区会議への参加 ・児童会書記局が、いじめ問題について交流・協議 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【小中連携委員会教務部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校の学習規律の比較及び共通の取組の検討 </div>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートの実施 ○ いじめアンケート及び「ほっと」の結果を活用した個別の教育相談の実施 ○ 「ほっと」の分析結果を活用した道徳の時間の授業の実施【2-(2) 思いやり】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめアンケートの実施 ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 ○ いじめアンケート及び「ほっと」の結果を活用した個別の教育相談の実施 ■ 縦割り地区遊び(異学年交流) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【小中連携委員会生徒指導部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童会・生徒会の取組の交流 ○ 年度末の引継ぎの在り方の検討 </div>
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「担任への手紙」② 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 縦割り地区遊び(異学年交流) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【標茶中学校新入生体験入学及び保護者説明会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学校生活等についての説明(生徒会書記局) ○ 部活動及び少年団活動の紹介(各部長) ○ 体験授業(数学科、理科、外国語科) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【小中連携委員会研修部会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校で共通した授業スタイルの検討 ○ 各教科の授業実践交流の企画 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【授業実践交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語科、算数・数学科、理科、社会科、外国語活動・外国語科 ○ 研修部会による交流内容の情報発信 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【標茶町いじめ根絶子ども会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 町内小中学校の代表児童生徒による1学校1運動の取組発表及び交流 ■ いじめ根絶の取組に係る意見交換 </div>
1月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【小学校の学習会への教員派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第6学年を対象とした学習会に参加し学習支援を実施 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【小学校の授業参観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習規律や学習過程の確認 ○ 児童の実態把握 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【冬休み学習会の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学年ごとに学習会を実施 </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ ありがとうボックスの取組の学級紹介 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p align="center">【授業参観日】</p> </div>

2月	○ 「担任への手紙」③	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">【授業参観日】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> 【中学校の授業参観】 ○ 学習規律や学習過程の確認 ○ 生徒の実態把握 </div>
3月		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【第2回小中連携委員会の開催】 ○ 今年度の取組の成果や課題の交流 ○ 次年度の取組の方向性の確認 </div>

6 事業の成果

○ 生徒指導の3つの機能を生かした教育活動や計画的な生徒会活動の展開することにより、生徒は学習や各行事等において、主体的に考え行動したり、仲間と連携しながら活動への積極的に参加するようになった。また、生徒が安心して学べるようになったことで、学習に対する意欲や集中力が高まった。

○ 「子ども理解支援ツール『ほっと』」の分析結果を活用し、教育相談やカウンセリングを充実させたり道徳の時間の内容の工夫を図ったりすることにより、児童生徒はいじめに対する意識を高め、教員や仲間自分の思いを伝えたり、仲間に対して思いやりのある言動をとったりする姿が見られるようになった。

○ 小中連携委員会の各部会において、交流・協議を実施したことにより、共通の視点で授業を参観したり、学習支援を通して児童の実態を把握したり、中学校生活に対する児童の不安を解消する新入生体験入学及び保護者説明会を実施することができた。

【中学校における「ほっと」の結果】				
項目	回答内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度
①少数意見であっても、自分の考えをしっかりと言うことができる。	あてはまる	70.7%	67.4%	74.2%
②積極的に集団活動に参加できる。	ややあてはまる	75.9%	80.8%	83.1%
③困ったことや悩みを先生や友達に相談することができる。	あてはまる割合	73.1%	74.4%	74.7%
【小学校における「いじめアンケートの結果】				
項目	回答内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度
いじめはどんなことがあっても許されないと思う。	そう思う	87.5%	96.7%	97.3%
	そう思わない	2.6%	0.7%	0.0%
	よく分からない	9.5%	2.4%	2.7%

7 今後の課題

○ 小学生が中学校生活に対して不安をもつことがないよう、小学校と中学校の円滑な接続を図るための具体的な取組について共通理解を図り、共通の指導を行うなど、小中連携を一層強化していく必要がある。

○ 児童会や生徒会が、いじめの未然防止に資する活動を企画・実施することができるよう、いじめ未然防止モデルプログラムを参考にして、児童生徒主体の取組を一層充実させる必要がある。

○ 保護者や地域と連携した取組を推進するため、小中連携の取組や関係機関と連携を図った取組等の情報をより一層積極的に発信する必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

○ 中学校を卒業する生徒を見据え、目指す子ども像を共有

小中連携を推進するためには、共通の目標に向かって取り組む必要があることから、小中9年間の指導で目指す子ども像について共通理解を図り、連携して取り組む内容と各学校で取り組む内容を整理して取組を進めることができる。

○ 児童生徒の課題解決を図る取組の計画・実施

小・中学校で共有した目指す子ども像に迫るためには、児童生徒の実態から課題を明らかにし、解決を図る取組を計画・実施する必要があることから、「いじめ未然防止モデルプログラム」を参考にしてこれまでの取組を見直し、改善・充実を図ることができる。

○ 各種調査やアンケート、「子ども理解支援ツール『ほっと』」を活用し、学校の取組を検証

中1ギャップを未然に防止するためには、日常的な児童生徒理解に基づく指導や意図的・計画的な人間関係づくりの取組等を実施することが重要であることから、各種調査やアンケート、「子ども理解支援ツール『ほっと』」を活用し、児童生徒の変容から各取組の成果や課題を明らかにして、授業改善や生徒指導の充実を図ることができる。

別海立野付中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 別海町立野付中学校（生徒数53名）
連携小学校名 別海町立野付小学校（児童数81名）

本プランの特徴

- 合同研修会を通して、子どもを育てるための教員のスキルアップと意識の共有化を図っています。
- 幼小中12年間を見通し、発達の段階を踏まえた学習規律や生活習慣の指導の充実を図っています。
- 危機管理等、小中共通の課題の解決に向けて、家庭や地域と連携・協力した取組を行っています。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、ラムサール条約に登録された日本最大の砂嘴である野付半島・野付湾を望む尾岱沼地区に1園1小1中で構成されている。地域の基幹産業である漁業を題材に、幼小中の発達の段階に応じた教材化を図り、地域に関する学習の充実に取り組んできた。特に本校で4月下旬に行っている、「チカの採卵実習」は50年以上続けられており、在校生の祖父母も行った歴史のある教育活動である。また、従前から幼稚園も含めた幼小中交流研修会を通して、授業参観等の連携・交流が行われている。

2 中学校区の課題

本中学校区の児童生徒は、明朗快活で学校行事等に対し一生懸命取り組む姿勢が見られる。しかし、幼少期から一定の人間関係のままで中学校期を迎えることから、成長や変化を認めたり、高め合ったりする機会が少ない。また、インターネットやゲームに依存する傾向の児童生徒が多く、学力定着や生活習慣の乱れが喫緊の課題であることから、家庭や地域と連携した生活習慣の改善の取組が必要である。

3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 「ほっと」や「Q-U」、各種生活アンケートの結果を共有し、指導の充実や改善を図る。
- (2) 発達の段階に応じた「身に付けたい学力や生活能力」を定め、一貫した指導の充実を図る。
- (3) コミュニティ・スクールの視点に立ち、家庭や地域と一緒に子どもの成長を支援する活動を推進する。

4 中1ギャップ検討委員会の組織

所属	役職	所属	役職
別海町立野付中学校	教 頭	別海町立野付小学校	教 頭
別海町立野付中学校	教 務 主 任	別海町立野付小学校	教務部研修担当
別海町立野付中学校	生徒指導主事	別海町立野付小学校	第6学年担任
別海町立野付中学校	第1学年担任	別海町立野付小学校	養護教諭
別海町立野付中学校	養護教諭	別海町教育委員会	指導参事
別海町立野付幼稚園	主任教諭	別海町教育委員会	学務課主幹

5 中1ギャップ解消プランの実際

□ ~小中連携の取組 ○ ~学校の取組 ■ ~児童会・生徒会の取組

時期	別海町立野付中学校	別海町立野付小学校
4月	○ 生徒の様子交流①（新入生）	○ 児童の様子交流会①（新入学児童）
5月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9e1f2; padding: 5px;"> 拠点校及び連携校と町教委による事業推進体制協議 </div> ・年間活動計画確認 等	
	○ 「Q-U」検査① ○ 「生活アンケート」① ○ 教育相談①	
6月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9e1f2; padding: 5px;"> 第1回 野付地区中1ギャップ検討委員会 </div> ・年間活動計画確認 等	
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #fff2cc; padding: 5px;"> 第1回 幼小中交流研修会 </div> ・研修の重点確認、情報交流 等	
	○ 生徒の様子交流② ○ フリー参観日	○ 「ほっと」① ○ 「学校生活アンケート」① ○ 個人面談① ○ 児童の様子交流会② ○ 中学校フリー参観日参加
7月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9e1f2; padding: 5px;"> 小中ほっとデータ送付 </div>	
	○ 授業実践、観察 ○ 「ほっと」実施	○ 「生活リズムチェックシート」の活用 ○ 「休み時間ひとりぼっち」調査の実施
8月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #d9e1f2; padding: 5px;"> 第1回 中1ギャップ問題未然防止研修会 </div> ・テーマ 「ほっと」を生かした学級・教科経営 ・講師 富家 直明 氏（北海道医療大学教授） ・内容 ①【説明・講義】子ども理解支援ツール「ほっと2014」について ②【分析・講評】野付に中1ギャップは存在しない？～小学校の中学年と中高接続へ	
9月	○ 授業実践、観察	
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #fff2cc; padding: 5px;"> 幼小中合同避難訓練 </div>	
10月	<div style="border: 1px solid black; background-color: #fff2cc; padding: 5px;"> 第2回 幼小中交流研修会 </div> ・野付学の取組の交流、「野付の子の目指す姿」の交流 等	

	○ 「生活アンケート」② ○ 教育相談②	○ 「ほっと」② ○ 「学校生活アンケート」② ○ 個人面談② ○ 児童の様子交流会③
時期	別海町立野付中学校	別海町立野付小学校
11月	幼小中PTA合同研修会	
	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ メディアコントロールの大切さ ～学校ができること、親のすべきこと～ ・講師 中谷 通恵 氏 (NPO 法人子どもとメディア認定インストラクター) 	
	○ 生徒の様子交流③ ○ 野付小授業公開研出席	○ 授業公開研
12月	第2回 中1ギャップ問題未然防止研修会	
	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ 子ども達が互いに認め合ったり高めあったりできる「仲間づくり」ゲームを実際に体験したり説明を受けながら教師個々のスキルを高める。 ・講師 河村 武司 氏、江幡 昌子 氏 (ネイパル厚岸 社会教育主事) ・内容 ①【説明】構成的グループエンカウンターとは ②【実技】アイスブレイク、グループエンカウンターの実際 	
1月	○ 「Q-U」検査② ○ 「生活アンケート」③ ○ 教育相談③	
2月	第2回 野付地区中1ギャップ検討委員会	
	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の成果と評価、考察 等 	
	第3回 幼小中交流研修会	
	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返り、「野付の子の目指す姿」完成 	
	○ 生徒の様子交流④ ○ 小学校出前授業 (6学年、社会科) ○ 受入れ授業 (6年生、理科、理科室にて) ○ 1日体験入学 (6年生、英語)	○ 中学校出前授業 (6年生) ○ 中学校出張授業 (6年生) ○ 中学校1日体験入学 (6年生)
3月	小中引継ぎ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっと」等各種データ使用 	

6 事業の成果

- 「ほっと」や「Q-U」検査や各種調査結果をもとに、生徒の心情に寄り添った教育相談に工夫改善を行ったことにより、学校生活に対する生徒や保護者の満足度指数に上昇が見られた。

【学校評価アンケート結果（一部抜粋）】（%～全校生徒及び全保護者における「満足できる」の割合）

	項目	H27	H26
生徒	学校ははじめもなく、楽しく生活できる。	98%	90%
	先生方は教育相談やアンケートなどを通して自分達の悩みにきちんと対応してくれる。	92%	88%
保護者	お子さんは、学校生活が楽しいと感じている（言っている）。	92%	86%
	学校は教育相談やアンケートなどを通して、生徒の悩み等に適切に対応している。	72%	57%

○地域学習（野付学）の体系化と並行し、長期的なスパンを見通して子どもを育てる具体的な構想を図で表す「野付の子のめざす姿」の検討や出前授業の実施などにより、小・中学校で統一した目標に向け、系統性のある指導内容や共通性のある指導方法について共通理解を深めることができた。



【幼小中交流研「野付の子のめざす姿」検討会議】



【出前授業（第6学年外国語活動）】

○危機管理やメディアコントロールなど、小・中共通の課題の解決に向けて、幼小中合同避難訓練への参加や、幼小中PTA合同研修会を開催することにより、学校、家庭、地域が共通の課題を共有することできた。

7 今後の課題

- 「ほっと」の等各種調査の結果を踏まえた指導や支援を継続的に行うとともに、経年変化をデータ化して引継ぎなどに活用する必要がある。
- 児童会や生徒会主催の取組を計画的に実施するなど、児童生徒の主体的な取組を促すよう工夫する必要がある。
- 家庭学習の手引や学習規律などの学習の「決まりごと」や、家庭や地域と連携したメディアコントロール等の生活の「決まりごと」をもとにした指導の充実を図る必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

○ 子ども理解支援ツール「ほっと」の継続実施と活用

子ども理解支援ツール「ほっと」を実施し、その結果を集団と個人に分けて分析することで、集団とともに子ども一人一人の成長や変容を客観的に把握でき、学級経営や生徒指導に生かすことができる。

○ 長期的なスパンで子どもを育てる認識とイメージ・実践の共有化

小・中学校の教員が長期的なスパンを見通して子どもを育てていこうという共通認識に立つとともに、社会に必要とされるよう、「目指す子の姿」を具体化し、共同で取り組んでいくことが大切である。

○ 学校・家庭・地域が同じベクトルをもつ

小・中学校の緩やかな接続には、学習指導・生徒指導において、共通理解を図るとともに、家庭や地域へ情報発信し、連携・協力した取組が大切である。